

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00964

研究課題名（和文）寺院史料の調査と個別的動向の解明に立脚した近世宗教政策像の更新

研究課題名（英文）Updating the Image of Early Modern Religious Policy Based on Investigation of Temple Historical Documents and Clarification of Individual Cases

研究代表者

朴澤 直秀（Naohide, Hozawa）

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：70377696

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：寺院史料調査については、近江国柏原（滋賀県米原市）の成菩提院の文書の整理について、もう少しで完了する状況に至った。また、鶴岡市郷土資料館所蔵の未整理寺院史料について調査・整理を完了し目録を公表した。個別事象の具体的解明や、政策動向の俯瞰を通じて、宗教政策やその前提となる状況について、教団構造と教団の動向、それに対する幕府の対応や、幕府の宗派認識に関する研究、近世の宗教政策に関わる情報に関する研究、政教関係の実態とその展開の検討などを推進した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、近年の、宗教政策や、幕府のもとでの宗教秩序をめぐる議論などを踏まえ、政治権力と宗教との関係の通時的把握につながる論点の提示や、具体的事象に即した実態・局面の解明などを進めた。幕府による宗派の把握、宗派認識や、藩と教団との関係、宗教に関わる情報の有様などを解明した。また、地域における教団組織の中心的な地位を持ち、教団中枢や地域の支配権力や、地域社会などとも関係を有し、多様な論点を内包する寺院史料について、調査・整理を推進した。

研究成果の概要（英文）：Regarding the survey of temple archives, we are close to completing the organization of documents from Jobodai-in Temple in Kashiwabara, Omi Province (Maibara City, Shiga Prefecture). In addition, research director have completed research and organization of unorganized temple archives in the collection of the Tsuruoka City Local Archives, and published a catalog. We have promoted research on religious policy and its preconditions through specific clarification of individual events and a bird's-eye view of policy trends. Specifically, we have studied the structure and trends of religious orders, the shogunate's response to them, and the shogunate's recognition of religious denominations; we have studied information related to religious policy in the early modern period; and we have examined the actual state of political and religious relations and their development.

研究分野：日本近世史

キーワード：宗教統制 宗教政策 寺院史料 藩と教団 幕府と宗派 教団構造 寺檀制度と情報 政教関係

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高埜利彦氏や杉田善雄氏らの研究や、身分集団論・地域史・書物研究の進展などを受け、1990年代以降、近世史を中心とした仏教教団に関わる研究は盛んになっている。特に2000年代に入ってから、幕藩権力と教団との関係を、あらためて問おうとする動向がみられる。また近年、研究代表者は「宗教政策」観の見直し、実務的な対応から結果的に「宗教統制」と捉え得るものが生成してくる様相を論じている。さらに、小林准士氏や上野大輔氏による、幕府による各宗派の教学統制権の承認をめぐる問題をめぐる議論、林晃弘氏による、初期・前期の寺社政策の見直しなどが進められつつある。

2. 研究の目的

研究動向を踏まえて課題を整理するならば、近世の「寺社政策」の実態についての見直し、寺社政策の幕政・藩政の諸動向への位置づけ、藩政や広域支配との関係の検討、教団の自治・自律のありようの検討、などを踏まえて、基底的な「宗教統制」に関する政策基調を改めて検討することが課題となる。本研究では、それを踏まえて、大きく言えば近世の「宗教政策」「宗教統制」像を更新し、実態に即した精緻かつ正確な像を提示すること、論点の総合化と、あらたな課題につながる論点を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

研究に際して、上記の諸課題に鑑み、「寺社政策」を狭義のものに留めずに広く検討すること、そのための戦略として、局所的・個別的な諸動向に着眼しつつ、それを全体的な動向に位置づけて検討することを重視する。また、研究推進の一つの軸として、近江国柏原(滋賀県米原市)の成菩提院文書など、寺院史料の調査・整理、検討を位置づける。研究分担としては、研究代表者が研究の統括、「宗教政策」像の総合的な見直し、研究分担者の曾根原理氏が幕府の宗教的構想を含めた思想史的、上野大輔氏が思想史的側面も含めた「領域的編成」などの政教関係の側面、林晃弘氏が、近世初期・近世前期の寺社政策の成立・確立に関する面を担当し、意見交換を行いつつ研究を進める。

4. 研究成果

(1) 成菩提院所蔵文書の調査・研究

研究代表者・研究分担者・研究協力者にて、研究代表者の前科研「日本近世を中心とした「宗教統制」像の再構築」ほか本科研と関連する共同研究の既往の調査を受けて、成菩提院文書(聖教分は別チームによって調査)の調査・研究を推進した。その結果、同文書の調査・整理(付番、中性紙封筒への整理を含む)について、若干の未了部分を残し、ほぼ完了に近づけることができた。

同文書は、実数としては1万点を超える規模であり、近世・近代を中心としつつ、中世から現代までの史料を含む。成菩提院は中本寺であり、美濃国揖斐郡の谷汲山のような一山寺院を含め、湖北・西濃を中心に多数の末寺・孫末寺を有した。また、比叡山延暦寺西塔正観院住職が成菩提院住職を兼帯する時期があるなど、比叡山との関係も深く、本末関係による交渉もある。さらに、畿内の広域支配や、近隣の領主である彦根藩、あるいは東叡山との行政上の関係もある。そして、代官を介した寺領支配や、近代における小作地経営も行われている。調査により、かかる特徴を有する成菩提院文書の全体像が明らかになってきた。史料群中には、成菩提院本体に関わる史料単位のほか、各末寺に関わるもの、近代の小作地・寺院経営に関わるもの、尾上寛仲氏による成菩提院の寺史などに関わるものなど、纏まった史料単位がある。

先述の通り、中世史料の調査、ならびにその福田榮次郎『成菩提院文書』の総合的研究(『明治大学人文科学研究所紀要』第45冊)との対照作業について、若干の作業未了部分がある。今後、それを完成させ、目録全体の整序を進めて、原蔵者の意向に即した公開を期したい。

また、本研究の期間中に、成菩提院住職を務めた漢詩人六如慈周に関して、宗内秩序における活動に着眼した曾根原理「六如慈周と近世天台宗教団」(『書物の時代の宗教』)を得、さらに後述の成菩提院の動向を通時的に見通す国際学会発表を得たが、さらに今後目録の完成作業を受けて、例えば広域支配や近隣領主を通じた支配と地方教団組織との関係、僧侶の直接的把握など、成菩提院史料のさらなる分析、その成稿を期したい。

(2) 鶴岡市郷土資料館所蔵未整理寺院関係史料等の調査・整理

研究代表者単独で、山形県鶴岡市の、鶴岡市郷土資料館における寺院・寺院政策関係史料の調査を行った。まず寺院政策関係史料としては、同館所蔵白井家文書や阿部正己文庫における、鶴岡藩関係の寺社領・寺社年中行事に関する史料、享和2(1802)年の庄内藩寺社奉行日記断片などを調査した。また、道形月江寺史料について、寺檀関係に関わる通念に関する史料の調査を行った。

さらに、同館所蔵の未整理(一部分の整理はなされていた)寺院関係史料の調査・目録作成を行った。調査対象は、龍覚寺文書・正覚寺文書・長泉寺文書である。新義真言宗の龍覚寺は、醍

酬寺三宝院末の田舎本寺・触頭であり、史料の内容は、近世後期～明治期の御用留や、江戸四箇寺からの触書の留帳、末寺関係のものを含む書類などである。浄土宗の正覚寺は、知恩院の直末だが、触頭大督寺の触下にあった。史料の多くは、近世後期～近代の寺院関係史料で、由緒書や本末明細書、什物帳、寺院運営関係の日記、出家願などが含まれる。時宗遊行派の長泉寺は、清浄光寺の末寺である。長泉寺が触頭であったか否かについては今後の検討が必要である。史料は、近世から昭和30年代頃までのもので、御用留、遊行上人逗留やその際の藩との折衝に関する史料などのほか、近代の山形県内における宗教行政、宗内行政、寺院運営に関わる史料、近隣の慈周寺院に関する史料などである。目録は、「鶴岡市郷土資料館所蔵 龍覚寺文書・正覚寺文書・長泉寺文書目録」(『東洋大学文学部紀要第77集史学科篇 第49号』)として公開した。さらに、藩内の触頭をめぐる論点や、遊行上人と藩との関係など、諸々の論点に関わる検討を進めたい。

(3) 教団構造と宗教者統制、幕府の宗派認識に関する研究

研究代表者は、『百箇条調書』や『祠部職掌類聚』(後述)などの寺社奉行関係史料、京都市西蓮寺文書などの寺院史料(京都市歴史資料館の写真帳を利用した)ならびに『藤沢山日鑑』など時宗関係の刊行史料を分析して、「仏教教団・宗派の構造」(『日本近世史を見通す』6宗教・思想・文化)を成稿した。本論文では、まず幕藩制のもとでの仏教教団の統属関係・支配系統について整理し、寺院や僧侶の格に関する支配系統においては、宗派共通の要素としては、相応の色衣の着用資格を得ることが重視されていたことに言及した。

そして、本山1ヶ寺(金光寺)末寺1ヶ寺(西蓮寺)という極小の構成である時宗市屋派、及びそれを包摂する時宗教団について、安永9(1777)年に裁許がなされた「宗法混雑」一件を中心に、その構造や、個々の寺院を取り巻く構造、それらをめぐる歴史的経過などについて分析を加えた。まず時宗教団に関しては、遊行派の主導のもと、他派を影響下に組み込んでいこうとする動向が窺え、この「宗法混雑」一件もその動向に位置づけることができるし、時宗に限らない広い動向とも捉えることができる。市屋派は、「宗法混雑」一件以前においては、寺院本末組織は存在するものの、僧侶集団を欠き、僧侶集団に関しては実質的には浄土宗西山派に包摂された状況であった。また金光寺・西蓮寺ともに、時宗教団(実質的には遊行派)との関係、浄土宗西山派の僧侶集団や近隣寺院との関係、寺元・寺院伝奏である花山院家との関係、市姫大明神・松尾旅所といった神社との関係、檀那との関係、地域の郷土一族や百姓一族との関係など、諸関係のもとに存在していた。それが、「宗法混雑」一件を経て、時宗遊行派の僧侶集団に包摂される状態に変容した。幕府側の把握の方向性としては、一般的に見れば、幕府側は諸宗に対し「宗」の統一的編成を求めているわけではなく、「派」ごとの、江戸触頭などを通じた把握もしている。しかし「時宗」については、遊行派以外の諸派が小規模である故に、遊行派側の動向と相俟って、遊行派の触頭を「時宗」全体の触頭として、それを通じての把握を指向したものと考えられる。そして幕府側は、寺院は本寺・触頭が管轄することが原則だという見解に立っており、浄土宗西山派の関与を、遊行派同様に「混雑」と捉えている。幕府の「宗」に対する(実態を問わず、「宗」を越えることを許容しない形式的な)把握が窺える。

なお本研究において、寺社奉行関係史料であるマイクロフィルム『近世法制史料集成』(篠山市青山歴史村所蔵『祠部職掌類聚』)を参照したが、同史料の細目について、研究期間中に研究代表者の監修のもと、一部のデータベース化を進めた。これについては、さらなる拡充、整序、公開を期したい。また、研究代表者は、『社会集団史』の分担執筆部分「教団構造と僧侶集団」において、安房国の新義真言宗教団の様相について、旧業に拠りつつ叙述し、僧侶集団と他の社会集団との関係が、寺院の存在形態や教団構造に規定されるという点が、諸仏教教団に通底することであることに言及した。

(4) 近世の宗教政策・宗教思想に関わる情報に関する研究

いわゆる「宗門檀那請合之掟」という近世の著名な偽法令は、他の、虚実取り混ぜた「法令」や「判例」などを併載した冊子として流布することがしばしばある。研究代表者は「宗門檀那請合之掟」の流布と併載記事(『書物の時代の宗教』)において、曹洞宗の僧侶雲樞泰禪が、享和3(1803)年に、志摩国の録所(教団内行政の地域における中心寺院)である鳥羽常安寺の住職となることを命ぜられた際に、曹洞宗触頭の関三刹の一つである龍穩寺の江戸宿寺で筆写した、「請合之掟」及び併載記事の写本『宗門檀那請合掟 附諸用留』を分析した。曹洞宗内での情報との関係の検討素材として、幕法、宗派内法令や、先例、問答、三刹配下寺院の一覧などを収載した愛知学院大学横関文庫『要録三刹留書』を取り上げた。また、「請合之掟」の付随情報に関する比較検討の素材として、浄土宗系の写本である『宗門檀那請合之控并御条目』を取り上げた。全体の傾向として「請合之掟」は広く流布するものの実用的に用いられるのはまれであるが、『宗門檀那請合掟 附諸用留』は執務の参考たり得る情報として筆写された例であるといえる。また、『宗門檀那請合掟 附諸用留』と『宗門檀那請合之控并御条目』とにそれぞれ併載された、寺檀関係の変更に関わる情報は、それぞれ系統を異にしつつも同じ内容が収斂されており、その情報への関心の高さが示されていると考えられる。なお「請合之掟」については、研究代表者は鶴岡市郷土資料館でも調査を行った。

また、2024年8月27日に、東洋大学白山キャンパスにおいて、科研(B)「近世日本における諸国東照宮と「神格化」の研究」(研究代表者:岸本覚氏)との共催で、「『大成経』研究の現在」研究会を開催し、曽根原理・W.J.ボート・佐藤俊晃・M.M.E.バウンステルス・湯浅佳子・野田政

和・石井公成・藤原明といった、外国大学の研究者を含む諸氏を報告者とした研究会を開催した。近世において幕府により偽書とされ、多方面に影響を与えた「先代旧事本紀大成経」について諸側面からの報告を得、影響関係やテキストなどを巡り研究状況を確認し、研究課題について議論を行った。

(5) 英語論文・国際学会での発信、それに向けての検討

研究代表者・研究分担者等は、英文論文や、国際学会のパネルにより、寺院史料調査、宗教政策、宗教政策研究の前提となる寺院・教団の実態把握などに関する発信を行った。

英語論文としては次の2編である。SONEHARA Satoshi, UMEDA Chihiro, Christopher MAYO, SERIGUCHI Mayuko, HŌZAWA Naohide “Religious Transformations in Early Modern Japan: Relationships Between the State, Religious Organizations and Communities” (International Journal of Buddhist Thought and Culture 30-1) は幕府による宗教統制観を相対化するものであり、研究代表者は寺檀制度をめぐる通念に関する叙述を分担した。また研究代表者単独の “State Control and Administration of Buddhist Sects Through Autonomy Within the Socio-political Context of Early Modern Japan” (International Journal of Buddhist Thought and Culture 30-1) では、教団構造や宗教政策の基調について、中国・韓国との寺院・僧侶統制の差異を念頭において考察した。

国際学会での報告としては、Association for Asian Studies 2021年カンファレンスにおいて、曾根原理氏により “The Re-Emergence of Enryakuji and the Re-Organization of Jobodai-in as a Detached Cloister” が報告され、成菩提院の動向・位置づけを、天台宗教団・比叡山延暦寺との関係を中心に、通時的に見通す視座が示された。研究代表者は、同カンファレンスのパネル Jon Morris, Daisuke Ueno, Naohide Hozawa “Reexamining Buddhist Institutions in Early Modern Japan” において “Revenue Flows and Sectarian Structures in Early Modern Buddhism” を報告し、その準備過程において、宗教政策を捉える上で前提となる教団の構造や特性について、差異と共通性とを考察した。また上野氏は “Administrative Temples in Early Modern Japanese Buddhist Institutions: The System and its Regional Foundations” にて触頭制度を通じた教団と幕藩領主との交渉、その地域的基盤を論じた。

(6) 近世前期の状況や、地域領主を視野に入れた、政教関係とその展開の検討

研究分担者により、近世初期の宗教政策に関わる研究が深められた。上野大輔「近世前期の宗派紛争と政教関係」(『歴史学研究』1015、歴史学研究会大会の報告要旨)では、近世前期の宗派紛争への政権の対応、「政教の棲み分け」に関する観念について分析が行われ、先に小林准士氏が提示した宗教紛争への幕藩領主の対処方針が、近世前期においても適用できることが示され、幕府の宗意判定権保持についてあらためて疑義が呈され、身分・職分編成の進展に関わって、政教の棲み分けが明確化されると論じられた。この報告に対して、曾根原氏が批判論文を執筆し、中世との「政教関係」の差異追究の必要性や、宗教性を組み込んだ国家を視野に入れた議論の必要性などを指摘した。また、近世後期に関わるが、小林氏が示した宗教紛争への幕藩領主の対処方針、ならびに近世の「宗教秩序」把握とその変容については、上野氏ならびに研究代表者が、小林氏の著書『日本近世の宗教秩序 浄土真宗の宗旨をめぐる紛争』の書評において議論を深めた。また上野大輔「長州藩における真宗寺院組合の形成 明林寺文書を手がかりに」(『山口県地方史研究』124)では、長州藩地域における真宗西派の寺院組合の形成や、その機能が明らかにされた。

林晃弘氏は、「近世的な政教関係の形成」(『日本近世史を見通す』6 宗教・思想・文化)において、織豊政権期から寛文期までの、政治権力と寺院との関係を通観した。直接的介入から、触頭・寺社奉行を通じた間接的な把握へとといった政策動向が整理されると共に、秀吉期の政策のその後への連続性、とりわけ学問、僧侶の器量の重視の連続性が論じられた。藩の動向については、林晃弘「近世前期における熊本藩の真宗統制」(『古文書研究』96、本科研で開催した研究会 2022年1月10日、オンライン)での報告「肥後熊本入封後の細川氏による真宗統制」に関連)において、江戸時代初期における政治権力と真宗との関係を、熊本藩を事例として検討した。細川氏による東派寺院へ西派転派命令による西派優勢の状況のもと、西派熊本三ヶ寺からの血判徴収、熊本藩の働きかけによる宗主からの掟書発給など、領主と本山・有力寺院との関係の構築のもとに寺院統制がなされていく様が明らかにされた。

また、地域領主と寺院・教団との関係をめぐって、近世中後期も含めた研究も深められた。林氏の「近江国高島郡阿弥陀寺の例外的な朱印改め」(『佛教史學研究』64-2)では、天台宗と律宗との、宗派を跨いだ兼帯がなされていた阿弥陀寺について、その特殊性のもとでの朱印改めの様相が明らかにされた。そして、地域朱印寺院への近隣領主を通じた支配、そのもとでの両者の関係の様相が検討された。また、18世紀初めに、幕藩領主において、近世の宗派という枠組みによる支配が強まるのではないかと、といった見通しが示された。また上野氏の『山口県史』通史編分担執筆部分では、長州藩の宗教政策や、寺社把握などが論じられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 上野大輔	4. 巻 第724号
2. 論文標題 〔書評〕小林准士著『日本近世の宗教秩序 浄土真宗の宗旨をめぐる紛争 』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 40～47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松浦智博	4. 巻 102
2. 論文標題 近世柏原宿における橋梁維持管理体制 道中奉行・個別領主・宿の関係に注目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 交通史研究	6. 最初と最後の頁 33-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松浦智博	4. 巻 727
2. 論文標題 近世後期の助郷役と個別領主 近江国湖北・湖東地域を素材に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 91-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 曽根原理・朴澤直秀	4. 巻 19
2. 論文標題 シンポジウム「作られた近世仏教イメージを見直す」趣旨説明	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野大輔	4. 巻 1015
2. 論文標題 近世前期の宗派紛争と政教関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曽根原理	4. 巻 1017
2. 論文標題 近世史部会 上野大輔 近世前期の宗派紛争と政教関係 石原和 近世後期名古屋の宗教動向と如来教 (2021年度歴史学研究会大会報告批判)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi SONEHARA, Chihiro UMEDA, MAYO Christopher, Mayuko SERIGUCHI, Naohide HOZAWA	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 Religious Transformations in Early Modern Japan: Relationships Between the State, Religious Organizations and Communities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought and Culture	6. 最初と最後の頁 39 ~ 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16893/ijbtc.2020.06.30.1.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naohide HOZAWA	4. 巻 30(2)
2. 論文標題 State Control and Administration of Buddhist Sects Through Autonomy Within the Socio-political Context of Early Modern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought and Culture	6. 最初と最後の頁 227 ~ 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16893/ijbtc.2020.12.31.2.227	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 842
2. 論文標題 紹介 佐藤孝之著『近世駆込寺と紛争解決』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野大輔	4. 巻 124
2. 論文標題 長州藩における真宗寺院組合の形成 明林寺文書を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山口県地方史研究	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 287
2. 論文標題 「宗門檀那請合之掟」の流布と併載記事	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 215-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 133-2
2. 論文標題 小林准士著『日本近世の宗教秩序 浄土真宗の宗旨をめぐる紛争』	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 49
2. 論文標題 鶴岡市郷土資料館所蔵 龍覚寺文書・正覚寺文書・長泉寺文書目録	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東洋大学文学部紀要史学科篇	6. 最初と最後の頁 214-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根原 理	4. 巻 287
2. 論文標題 六如慈周と天台宗教団	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 49-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林晃弘	4. 巻 96
2. 論文標題 近世前期における熊本藩の真宗統制	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林晃弘	4. 巻 25
2. 論文標題 史料紹介 曹洞宗可睡斎派寺院宛の徳川家康文書 西尾市岩瀬文庫所蔵『御朱印写』所収文書の紹介	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 織豊期研究	6. 最初と最後の頁 108-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林晃弘	4. 巻 64-2
2. 論文標題 近江国高島郡阿弥陀寺の例外的な朱印改め	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佛教史學研究	6. 最初と最後の頁 41-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林晃弘	4. 巻 728
2. 論文標題 書評 北陸中世近世移行期研究会編『地域統合の多様と複合』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 64-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Sonehara Satoshi
2. 発表標題 Tenkai, Performer of Esoteric Ritual
3. 学会等名 2022 The Asian Studies Conference Japan Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林 晃弘
2. 発表標題 近世前期における熊本藩の真宗統制
3. 学会等名 第72回佛教史學會學術大會
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松浦智博
2. 発表標題 近世後期の助郷役と個別領主 近江国湖北・湖東地域を素材に
3. 学会等名 日本史研究会大会近世史部会共同研究報告（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naohide Hozawa
2. 発表標題 The Regulation and Control of Buddhist Temples in Early Modern Japan
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野大輔
2. 発表標題 Administrative Temples in Early Modern Japanese Buddhist Institutions: The System and its Regional Foundations
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野大輔
2. 発表標題 近世前期の宗派紛争と政教関係
3. 学会等名 2021年度歴史学研究会大会近世史部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松浦智博
2. 発表標題 18世紀幕府交通政策と宿駅・個別領主－近江国柏原宿を事例に－
3. 学会等名 大阪歴史学会近世史部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 HOZAWA Naohide
2. 発表標題 Revenue Flows and Sectarian Structures in Early Modern Buddhism
3. 学会等名 AAS 2021 Virtual Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SONEHARA Satoshi
2. 発表標題 The Re-Emergence of Enryakuji and the Re-Organization of Jobodai-in as a Detached Cloister
3. 学会等名 AAS 2021 Virtual Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野大輔
2. 発表標題 近世的政教関係をめぐる一考察 浄土宗・日蓮宗の紛争と江戸幕府
3. 学会等名 中近世宗教学研究会第23回オンライン例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野大輔
2. 発表標題 近世前期の宗派紛争と政教関係
3. 学会等名 歴史学研究会日本近世史部会2021年度大会第1回準備報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 曾根原 理
2. 発表標題 天海研究から『大成経』研究へ
3. 学会等名 「『大成経』研究の現在」研究会（科研「寺院史料の調査と個別的動向の解明に立脚した近世宗教政策像の更新」「近世日本における諸国東照宮と「神格化」の研究」共催）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 岩城 卓二、上島 享、河西 秀哉、塩出 浩之、谷川 穰、告井 幸男編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 論点・日本史学（朴澤直秀「幕藩権力の寺社支配」）	

1. 著者名 塚田 孝編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 416
3. 書名 社会集団史（朴澤直秀「教団構造と僧侶集団」）	

1. 著者名 府中市編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 府中市	5. 総ページ数 563
3. 書名 新 府中市史 近世 資料編 下 (朴澤直秀、分担執筆)	

1. 著者名 山口県編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山口県	5. 総ページ数 1128
3. 書名 山口県史 通史編 近世 (上野大輔、分担執筆)	

1. 著者名 平塚市博物館市史編さん担当編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 平塚市	5. 総ページ数 907
3. 書名 平塚市史13下 別編寺社(2) (朴澤直秀、分担執筆)	

1. 著者名 福田 千鶴、藤實 久美子(編)(分担執筆:林晃弘)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 488
3. 書名 近世日記の世界	

1. 著者名 本興寺(編)、岩城 卓二、上野 大輔、幡鎌 一弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 414
3. 書名 本興寺文書	

1. 著者名 港区(東京都)(編)(分担執筆:上野大輔)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 港区(東京都)	5. 総ページ数 500
3. 書名 『港区史』第2巻 通史編 近世上	

1. 著者名 日本佛教学会(項目「檀家制度」執筆、朴澤直秀)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 724
3. 書名 仏教事典	

1. 著者名 上野大輔・小林准士(編)(林晃弘・朴澤直秀執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 200
3. 書名 日本近世史を見通す6 宗教・思想・文化	

1. 著者名 中村 元、福永 光司、田村 芳朗、今野 達、末木 文美士（上野大輔執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 1312
3. 書名 岩波 仏教辞典 第三版	

1. 著者名 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美（編）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 432
3. 書名 日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ！	

1. 著者名 港区（編）（東京都）（上野大輔執筆）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 港区（東京都）	5. 総ページ数 534
3. 書名 港区史 第10-1巻 資料編2-1 近世	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	曾根原 理 (Sonehara Satoshi) (30222079)	東北大学・学術資源研究公開センター・助教 (11301)	
研究分担者	上野 大輔 (Ueno Daisuke) (90632117)	慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 晃弘 (Hayashi Akihiro) (10719272)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	青柳 周一 (Aoyagi Shuichi)		
研究協力者	梅田 千尋 (Umeda chihiro)		
研究協力者	東 幸代 (Azuma Sachiyp)		
研究協力者	松金 直美 (Matsukane Naomi)		
研究協力者	芹口 真結子 (Seriguchi Mayuko)		
研究協力者	松浦 智博 (Matsuura Tomohiro)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------